

# ここに居てもいいと思える場所に

特定非営利活動法人  
晴雲の里

理事長公認心理師

三上昭彦さん

(下赤名)

## 晴雲の里とは？

障害のある人の日中の活動を支援する「地域活動支援センター」と、障害や難病がある方が、就労の能力を高めたり働きによって収入を得る「就労継続支援B型事業所」を運営しています。

平成18年2月に法人化した就労継続支援B型事業所を開設しました。現在の登録利用者数は18名です。

## どんな仕事を提供されていますか？

自動車パーツ組み立て、一

# 明日を拓く



熱く思いを語られる三上理事長

福のギフト箱折り、J Aのシール貼り等の施設内作業と、町施設の清掃&ワックス掛け(施設外作業)が主な仕事です。

なかでも、一流メーカーの一部の車種には、晴雲の里で加工・組み立てした部品が装着されています。国内で唯一生産している施設です。信頼されるようになるようになったのは、施設利用者が製造を担当し、職員が検品をするように分業し、質の高い製品を納める形態がとれたからです。

このことは、福祉就労の場において質の高い物を目指し、信頼を得ることが出来ることを証明できました。これ

は、利用者にとっても目に見える社会貢献であり、仕事のモチベーションとなっています。

もうひとつの柱は、町施設の清掃作業です。その合間で一福のギフト箱折りとかJ Aのシール貼りなどを織り交ぜています。

## どんな施設を目指していますか？

晴雲の里の新ロゴ「SEI UN」には、SAY(言う・思う、信じる・示している)UN(承諾・納得)。「自分自身をありのままに受け入れ、他の人も同じように受け入れ、みんなで共同・貢献していくことを目的とした組織」という思いを込めました。

私たちの『かけがえのない体』はいろんな機能や役割が連携して目的を果たします。それと同じように、『晴雲の里の利用者』がそれぞれの能力や強みを活かして貢献・共同する場所になりたいと考えています。

一般的に施設では職員と利用者は縦関係、職員の指示は絶対ですが、晴雲の里は横並



新築された晴雲の里

びの関係の支援施設でありたい。話し方も指示ではなく、言葉遣いも丁寧に、一緒に考えて同意するようにしています。敬意を込めた人の扱いをされることで、施設利用者の自尊心が保たれると思っています。新施設になって環境面が整ったことから、身体・知的・精神・難病と全て受け入れ可能な施設となりました。

この建物を見た人が何か温かいものを感じ、ここに入ることを躊躇させない。みんなが「ここに居ても良いのだ」と思える居場所になればいいと思っています。

募集

「明日を拓く」で取り上げてほしい会社や個人、団体、行事やイベントなどの情報をお寄せください。取材に伺います。議会報の表紙に使う写真の募集もあわせて行います。自薦他薦は問いません。皆様からのご応募をお待ちしています。

《応募先》飯南町議会事務局 0854-76-2190

今月の  
表紙写真



黙々と作業に集中されているので、話しかけることもできない雰囲気……。自動車部品など高い品質が要求される部品製作を行っている場所があると聞き、頓原にある「晴雲の里」を訪問しました。「努力したものが正しく報われる環境を創っていきたい」という理事長やスタッフのそうした強い思いが、事業所の安定と発展を支えているのだと、取材を通して感じました。